

浜の活力再生プラン

1 地域水産業再生委員会

組織名	千葉県地域水産業再生委員会安房地区部会
代表者名	安房地区部会長 稲葉 晃一

再生委員会の 構成員	天羽、鋸南町保田、鋸南町勝山、岩井、富浦町、館山船形、西岬、波左間、館山市相浜、館山市布良、東安房、鴨川市各漁業協同組合、富津市、鋸南町、南房総市、館山市、鴨川市の各水産主務課、千葉県（館山水産事務所）、千葉県漁業協同組合連合会
オブザーバー	千葉県水産総合研究センターほか

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	南房総市 岩井・富浦地区 定置網漁業 2ヶ統、19名
-------------------	-------------------------------

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

- ・ 南房総市岩井・富浦地区は大型・小型定置網漁業が営まれているが、高齢化や経営不振等から、10ヶ統から4ヶ統（うち2ヶ統が漁協自営）まで減少しており、さらに、近年急激による魚網の損壊等の被害が多発し、修繕費や網、ロープ等の購入経費がかさみ、漁協経営を圧迫している。
- ・ 漁業者の減少や高齢化により水揚量が減少し、魚価低迷が深刻になっているため、現在、当該地区の漁協合併が協議される中で、定置網からの水揚を確保して、市場統合を進めて集約化を図るとともに、魚価アップに繋がる衛生管理の徹底・鮮度向上のための施設整備を検討中である。
- ・ さらに今後、漁協合併を契機に新規漁業就業者の受け入れも積極的に行いながら、次世代の地域活動の担い手を育成し、漁業の再編成をしていくことで、地域の活性化を図る必要がある。

(2) その他の関連する現状等

- ・ 南房総市が独自に「内房漁村再生計画」を策定し、地域資源活用・交流施設等の整備を実施してきたところである。
- ・ また、定置見学、加工体験、漁協直売所・食堂等も展開しており、観光と連携した事業展開により、組合経営の安定化に努めてきている。
- ・ 現在関係2漁協（岩井漁業協同組合、富浦町漁業協同組合）の合併について、協議が進んでいるところである。

3 活性化の取組方針

(1) 基本方針

① 漁業収入向上対策

◆ 定置網の改良

・ 2ヶ統の定置網について、漁獲に影響を与える網成り（網の形成能力）を改善するため、定置網を支える側張を適正に張り替えるとともに、現在の網地の目合16節から潮流の影響を受けにくい目合いに拡大し、生産量の向上を図る。

◆ 付加価値向上対策

・ 漁協合併を見据え、市場統合による水揚物の集約化を図るとともに、市場統合に必要な施設（荷捌き施設、冷水器、冷凍冷蔵施設）を整備し、鮮度保持技術を向上させる。また、市場統合とあわせて新規買受人の受け入れを行い、販売力強化による単価向上を目指す。

◆ 低・未利用魚の利用

・ 大量に漁獲されるが単価の安いゴマサバ等の低・未利用魚の活用を図るため、県水産総合研究センターと連携して、ゴマサバの冷凍保存技術の改良に取り組み、アニサキス（寄生虫）の低減による冷凍刺身の通年提供を目指す。また、ゴマサバを含む低・未利用魚について、地元の漁協自営食堂の道の駅富楽里（ふらり）「網納屋」（岩井地区）及び富浦漁港「おさかな倶楽部」（富浦地区）で積極的な提供・販売を行い、収入増を目指す。

◆ 観光・交流との連携

・ 観光雑誌や市HP「南房総市いいとこどり」等に、体験漁業（定置網、地曳網等）や地元水産物を積極的にPRし、観光客の集客を図ることにより自営食堂の利用率を向上させ、収入増大を目指す。

② 漁業コスト削減対策

◆ 定置網の改良

・ 急潮に伴い定置網が損傷した際はその都度修繕費が必要となるため、2ヶ統の定置網を段階的に部分改良（網目拡大および定置網側張部分の安定性向上）し、急潮被害の軽減による修繕費、消耗品費の削減を図る。

・ 2ヶ統の定置網について、資材購入経費を削減するため、網・ロープ等の資材の共有化を図る。

(2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

--

(3) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成26年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>定置網漁業者が漁協と連携しつつ以下の取組を実施する。 取組内容は、取組の進捗状況や得られた成果等を踏まえ必要に応じ見直すこととする。</p> <p>◆定置網の改良 岩井地区において急潮に強い改良漁具を第2箱網部に導入することにより、網成り向上による操業の安定化および漁具の損耗抑制による休漁日縮減を図り、生産量を増加させる。</p> <p>◆市場統合・付加価値向上 定置網で漁獲される魚の鮮度保持をより高めるため、他地区の例を参考に衛生管理手法や冷凍法の検討を進める。</p> <p>◆低・未利用魚の利用、観光・交流との連携 大量に漁獲されるが単価の安いゴマサバについて、県水産総合研究センターの指導を受け、刺身用にも提供できる冷凍法（高鮮度の状態で-20℃~-60℃で凍結）を導入し自営食堂で提供する。また、数量がまとまらず値段がつかない低・未利用魚についても、自営食堂などで積極的に利用し、併せて観光定置等のPRも行うことにより、漁業収入の増大を図る。さらに、これらの取組を踏まえ、自営食堂等以外にも販路の開拓を検討する。</p> <p>以上により基準年度比1%の漁業収入向上に取り組む。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>◆定置網の改良 岩井地区において、急潮に強い改良漁具を第2箱網部に導入し、急潮被害の軽減による修繕費、消耗品費の削減を図ることにより、基準年度比で1%削減する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>事業未定（漁具改良）</p>

2年目（平成27年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>◆定置網の改良 昨年度に第2箱網部を改良した岩井地区において、網成りの適正化、操業日の増加により生産量が増加していることを確認する。 富浦地区において、新たに急潮に強い改良漁具（箱網部）を導入することにより、網成り向上による操業の安定化および漁具の損耗抑制による休漁日縮減を図り、生産量を増加させる。</p> <p>◆市場統合・付加価値向上 市場統合に向けた検討および関係者調整を進め、前年の検討結果を踏まえ、市場統合に必要な施設（荷捌施設、冷水器、冷凍冷蔵施設）の設計を行う。</p> <p>◆低・未利用魚の利用、観光・交流との連携 観光定置等のPRを実施し、自営食堂の利用率増加を図るとともに、地元でしか味わえない低・未利用魚が充分食材になることをアピールし、低・未利用魚を自営食堂で積極的に活用するとともに、この成果を踏まえ、他の飲食店等への売り込みを図る。</p> <p>以上により基準年度比3%の漁業収入向上に取り組む。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>◆定置網の改良 富浦地区において急潮に強い改良漁具を導入し、急潮被害の軽減による修繕費、消耗品費の削減を図る。昨年度改良漁具を導入した岩井地区においては漁具の損耗が抑えられていることを確認する。</p> <p>以上により基準年度比6%の漁業コスト削減に取り組む。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>産地水産業強化支援事業、事業未定（漁具改良）</p>

3年目（平成28年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>◆定置網の効率化 岩井地区において、第2箱網部に加え、第1箱網部にも改良漁具を導入し、急潮対策を強化する。 昨年度に改良漁具を導入した富浦地区において、網成りの適正化、操業日の増加により生産量が増加していることを確認する。</p> <p>◆市場統合・付加価値向上 市場統合に必要な施設（荷さばき施設、冷水器、冷凍冷蔵施設）を整備し、水揚物の集約、新規買受人の受入れ、漁獲物の鮮度保持向上による魚価向上を図る。</p> <p>◆低・未利用魚の利用、観光・交流との連携 引き続き観光定置等のPRを実施し、自営食堂の利用率増加を図るとともに、低・未利用魚を積極的に活用した食事を提供する。また、他飲食店への提供など引き続き、販路の拡大を図る。</p> <p>以上により基準年度比5%の漁業収入向上に取り組む。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>◆定置網の改良 岩井地区において、第2箱網部に加え、第1箱網部にも改良漁具を導入し、急潮被害の軽減による修繕費、消耗品費の削減を図る。昨年度に改良漁具を導入した富浦地区においては漁具の損耗が抑えられていることを確認する。</p> <p>以上により基準年度比14%の漁業コスト削減に取り組む。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>産地水産業強化支援事業、事業未定（漁具改良）</p>

4年目（平成29年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>◆定置網の改良 岩井地区、富浦地区において、改良漁具の導入により網成りの適正化、操業日の増加が図られ、生産量が増加していることを確認する。</p> <p>◆市場統合・付加価値向上 完成した荷さばき施設、冷水器、冷凍冷蔵施設を活用し、水揚物の集約、新規買受人の受入れ、漁獲物の鮮度保持向上による取扱量増及び魚価向上を図る。</p> <p>◆低・未利用魚の利用、観光・交流との連携 引き続き観光定置等のPRに取り組み、観光客を安定的に呼び込むことによる自営食堂の利用率増を図るとともに、低・未利用魚を積極的に提供する。また、他飲食店への提供など引き続き、販路の拡大を図る。</p> <p>以上により基準年度比8%の漁業収入向上に取り組む。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>◆定置網の改良 岩井地区、富浦地区において、急潮被害の軽減による修繕費、消耗品費の削減が維持されていることを確認する。</p> <p>以上により基準年度比23%の漁業コスト削減に取り組む。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>産地水産業強化支援事業</p>

5年目（平成30年度）

漁業収入向上のための取組	<p>最終年であり、以下の取組を引き続き行うが、目標達成を確実なものとするようプラン取組の成果を検証し必要な見直しを行うこととする。</p> <p>◆定置網の効率化 岩井地区において、最終年度、さらに垣網部に改良漁具を導入する。 富浦地区において、網成りの適正化により、生産量が増加していることを確認する。</p> <p>◆市場統合・付加価値向上 完成した荷さばき施設、冷水器、冷凍冷蔵施設を活用し、水揚物の集約、新規買受人の受入れ、漁獲物の鮮度保持向上による魚価向上を図る。</p> <p>◆低・未利用魚の利用、観光・交流との連携 引き続き観光定置等のPRIに取り組み、観光客を安定的に呼び込むことによる自営食堂の利用率増を図るとともに、低・未利用魚を積極的に提供する。また、他飲食店への提供など引き続き、販路の拡大を図る。</p> <p>以上により基準年度比10%の漁業収入向上に取り組む。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>◆定置網の改良 岩井地区において垣網部に改良漁具を導入することにより、岩井地区、富浦地区、両地区の漁具改良が完了し、急潮被害の軽減による修繕費、消耗品費の削減の結果、基準年度比で34%削減する。</p>
活用する支援措置等	事業未定（漁具改良）

(4) 関係機関との連携

--

4 目標

(1) 数値目標

漁業所得の向上10%以上	基準年	平成25年度： 円
	目標年	平成30年度： 円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

別紙参照

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
産地水産業強化支援事業	施設整備等（地区漁業の中核をなすとともに浜の活力再生プランに位置づけられる所得向上を目指す対象漁家が従事する定置漁業のほか、当該施設へ水揚げするその他漁業への支援）